福山市中央図書館　発行　２０２６　Vol. １７０

YOUNG 通信

福山市図書館のHP

読書で深める「どう生きる？」

この物語は、中学２年生のコペル君がなぜ「コペル君」と呼ばれるようになったのかというところから始まります。

著者の吉野源三郎さんは、明治生まれで、この本は元々、1937 年（昭和 12 年）に発行されました。古い言い回しも多く出てきますが、内容は友情や悩みなど現代に通じることも多く、自分の頭で考え、生きていくにはどうすればいいのか、物理学や歴史の話題を交えて問いかけます。



『君たちはどう生きるか』
吉野　源三郎／著
マガジンハウス　［Y159 ヨ］

『ピーチとチョコレート』
福木　はる／著
講談社　［Y913 フ］



中学２年生の大城萌々（おおしろもも）は、クラスの中で「気のいい萌々」を演じながら過ごしていました。

ある日、コンビニでヒップホップ・ラップの講師をしている Mai と出会い、教室に誘われます。そこには、クラスで浮いている、新垣（あらかき）メロディ莉愛（りあ）の姿もありました。ラップを続けるうちに、萌々は、イメージで決めつけることから離れ、自由に表現する楽しさを感じていきます。

やなせたかしさんは、５歳で父親を亡くし、２０代で戦争を体験しました。その人生では多くの人と出会い、漫画家としての自分に悩みながらも、舞台美術や、ラジオドラマ、アニメ制作など、多種多様な仕事に挑戦していきます。

さまざまな経験を積み重ね、世にアンパンマンを生み出したやなせさんの生涯について書かれた本です。

『やなせたかし』
筑摩書房編集部／著
筑摩書房　［Y289 ヤ］



としょ子のつぶやき

としょラム

「人生の展開」

アンパンマンは、やなせたかしさんが 69 歳の時にアニメ化されたんだって。90 歳になってからもどんどん仕事が増えて、やなせさんはそんな自分の人生の展開に驚いたそうだよ。

いくつになっても、前向きに取り組めるものがあるのって素敵だね♪

『人生、90 歳からおもしろい！』　やなせ　たかし／著
フレーベル館　726. 1 ヤ

推し本

『ジョン万次郎 海を渡ったサムライ魂』
マーギー・プロイス／著
金原　瑞人／訳
集英社　［Y933 フ］



漁師たちと海に出た万次郎は、嵐にあって遭難してしまいます。

壊れた舟で漂流し、島に流れ着いたものの、日本に戻れず困っていたところ、異国の捕鯨船に助けられ、アメリカ本土へ渡ることになりました。そこでは言葉が通じず、差別や文化の違いに直面しました。しかし、万次郎は持ち前の好奇心と誠実さで困難を乗り越えていきます。

実話をもとにした勇気溢れる冒険小説です。

いろんなミカタ（見方）を通してフシギ（不思議）を見つけてみましょう。フシギをさらに探ったら、もっとたくさんのフシギが見つかりますよ。野菜やフルーツの中身を観察したり、ペンギンの歩き方をマネしたり、シマウマの模様を描いてみたり、トウモロコシのツブの数を数えたり、紙コップを分解したりと、この本にはフシギを見つけるヒントがたくさん掲載されています。巻末には、自由研究のコツが載っていますので参考にしてください。



『NHK カガクノミカタ自分だけの「フシギ」を見つけよう！』
NHK「カガクノミカタ」制作班／編
ヨシタケ　シンスケ／絵 NHK 出版　［Y407 エ］

NEW BOOKS



『成長する有機体』
歌代　朔／作
あかね書房　［Y913 ウ］

中学３年の秋に町の図書館で５日間「職場体験」をすることになった普花（ふうか）は、「普通の普」の字が使われている自分の名前が嫌いでした。でも、陽気な男子・周（めぐる）や、幼なじみで不登校の良輝（よしてる）と一緒に活動し、図書館職員と会話をするなかで、少しずつ気持ちに変化が起きます。視界が一気に広がり、今まで見ていた世界が変わって見える本にも出会い、図書館がもっと好きになりました。

『なんとなく「美術系に行きたい」と思ったときに読む美大入試完全ガイド』
河合塾美術研究所／監修　KADOKAWA　［Y376 ナ］

『ぼくは気象庁の予報官』
井上 創介／著　河出書房新社　［Y451 イ］

『高校生発！発明品・ご当地商品』
三省堂編修所／編　三省堂　［Y507 コ］

『アートがわかる！』
西岡 文彦／著　岩波書店　［Y704 ニ］

『堕天使の詩』
魚住 洋平／著
幻冬舎メディアコンサルティング　［Y913 ウ］

電子図書について

パソコンやスマホで本が読める「福山市電子図書貸出サービス」登録受付中です。くわしくは近くの図書館におたずねください。



福山市中央図書館
福山市霞町一丁目１０番１号
ＴＥＬ９３２－７２２２
休 館 日・・・毎月第２火曜日
開館時間・・・１０：００～１９：００